

ADVANレーシングタイヤインフォメーション

2009年 SUPERGTシリーズ第1戦

2009.3.22

OKAYAMA GT 300km RACE



横浜ゴム(株)が「ADVAN」ブランドで、挑戦を重ねるカテゴリーのひとつ、SUPER GTシリーズ。2009年も全9戦で争われ、海外のサーキットも舞台とする日本の最高峰、かつ激しいバトルが繰り広げられるレースである。ADVANはGT500クラスに出場する、KONDO RACINGとのパートナーシップを継続。3年目のコンビとなるジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと荒聖治が、HIS ADVAN KONDO GT-Rをドライブし、優勝を目指す。

09年のSUPER GTには、さまざまな変化が見られる。まずレーススケジュールだが、従来は金曜日に練習走行を、土曜日に予選を、そして日曜日に決勝レースを行うというように、実質3日間で開催されてきた。これが練習走行と予選を土曜日に、決勝レースを日曜日に行うことで、2日間に短縮されたのである。これに伴い、従来は各チーム11セットのタイヤを持ち込むことができたが、9セットに減らされることにもなった。また、スーパーラップで使用したタイヤを、決勝レースのスタート時に用いることも義務づけられた。

車両的にもGT500クラスは、本来すべての車両がFRIに、そして3.4lのNA(自然吸気)エンジンに統一されるようになっていた。しかしながら、完全に対応できたのはレクサスSC430のみ。そのため、ニッサンGT-RとホンダNSXに対しては、特別性能調整が施された。また、GT300クラスも含め、フラットボトムが拡大され、同時にフロントにカナードの装着が禁止に。GT500クラスではリヤウィングも縮小されたため、すべての車両が大幅にダウンフォースを削られることとなった。

これらの変化に対応すべく、ここまでのテストで入念なチェックが行われた

結果、より接地性が必要とされたため、従来よりも構造が柔らかくなっているのが、09年のGT500タイヤの特徴だ。別項でドライバーが好印象を述べているとおり、タイヤの仕上がりは上々。新レギュレーションでは、結果に応じてウエイトハンディが増えることはあっても、最終戦を除いて減ることはないので、スタートダッシュが非常に重要な意味を持つ。HIS ADVAN KONDO GT-Rは、例年以上に必勝態勢を敷いて、この開幕戦に臨む。

また、GT500クラスでは、TEAM NOVAもパートナーに迎えることが決定。国内レース初登場のASTON MARTIN赤坂DBR9を、都筑晶裕と土屋武士がドライブする。シェイクダウンを行ったばかりで、戦闘力は未知数ながら、FIA-GTフルスペックの車両が、どんな活躍を見せるのか、大いに注目されている。

一方、GT300クラスでは今回出場する21台のうち、15台がADVANユーザーとなり、08年よりもシェアを拡大。昨年のチャンピオン、エスロードMOLA Zが陣営に加わり、またニューマシンのフェラーリF430やカローラアクシオもラインアップに含められて、今まで以上に多種多様な車両に対応が求められることとなった。GT500クラス同様、ダウンフォース減によって構造にも変化が要求されると思われたものの、さまざま試された結果、意外に影響は少なく、大幅な変更をせずとも対応できることが明らかに。テストではそれぞれ好タイムを連発しており、高い戦闘力も確認されている。もちろん、目標は王座奪還。その手応えは十分にある。

今回のレースでGT500クラスに用意されたドライタイヤは、ソフト、ミディアムの2種類。ウエットタイヤに関しても、同様に2種類が用意されている。

なお、ウエットタイヤはGT300クラス用のパターンが変更された。その効果のほどはテストでは確認されている。今回準備されるADVANレーシングタイヤの総本数は約1000本。先に触れた持ち込みセット数の変更により、昨年の3割減に。



2009年 SUPERGTシリーズ第1戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, M)	2種類 (SS, S)
	サイズ	330/710R18, 330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18, 250/650R18
ウエット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, M)	1種類 (S)
	サイズ	330/710R18, 330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18, 250/650R18

109年、ADVAN戦士たちが躍進を誓う!

09年のSUPER GTでは、どんな戦いが繰り広げられるのだろうか。もちろん、期待されるのはADVANユーザーたちの活躍だ。体制などがまったく不動のチームがあれば、大きく変化を遂げたチームもある。すべてに共通して当てはまるのは、必勝を期して最高の環境を整えたということ!そこでGT500、GT300それぞれのADVANエースドライバーたちに、09年の豊か目標を語ってもらった。



GT500

24 HIS ADVAN KONDO GT-R

ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ

Joao Paulo Lima De Oliveira

今年のADVANは、すごく進化している強いGT-Rとともに、昨年以上の結果を!

今年のGT-Rは昨年に増して強くて、安定しているクルマだと思ふ。トヨタのニューカーやホンダのクルマがどこまで本気で走っているかわからないけど、僕らが絶えず全力で走っている状況の中では、一歩リードしているのを強く感じるよ。しかも細かい部分が進化しているんで、トラブルに見舞われることなく、信頼性もすごく高まっている。

とはいえ、上位の実力は接近しているし、ウエイトハンディのこともあるので、絶えず楽に戦えるとは、さすがに思っていない。ただ、どんな状況であっても、コンスタントに上位にいたい。それと昨年を上回る成績を残すことを目標としているんだ。

ADVANのタイヤは今年になってまた進化して、ライバルメーカーにも同等か、それ以上の性能を発揮するようになったと思ふ。今年のADVANユーザーはGT500クラスで(国産車では)僕らだけだから、すべてを背負っているというプレッシャーがないわけじゃない。でも、スタッフが勢力を注いでくれるというメリットもあるし、開発のスピードが上がっているのは、すごくいいこと。さっきは昨年以上と言ったけど、実は遥かに超えるような結果が残せるような気がしているんだよ。



Joao Paulo Lima de Oliveira
1981年7月13日生まれ、ブラジル出身。南アメリカF3選手権を経て、01年よりドイツF3選手権に出場。3年目の03年にチャンピオンに輝いた後、来日して全日本F3選手権を戦う。05年には王座を獲得。昨年はフォーミュラ・ニッポンでランキング8位、最上位は2位

荒 聖治

Seiji Ara

今年は常に安定して速く! ドライもウェットも、タイヤの仕上がりは上々

目標は昨年以上に勝つこと、それと年間を通じて常に安定していることですね。いい時はいいんだけど、悪い時は…というばらつきをなくして、いつでも平均して速く走れる、というのをチーム一丸となって進めています。昨年はそういう安定感に欠けていたのと、レギュレーションに左右され過ぎたという反省点があるんです。これをクリアするには、チームも僕らドライバーも総合的に能力を高めていく必要がありますが、全体のムードは悪くないですよ。

今年のタイヤの印象としては、まずウェット用タイヤに関していうと、昨年のウェットテストで効率のいい開発ができて、最終戦でもいいパフォーマンスを示せました。今年も何回かテストで雨の中を走ったんですが、そこでもすごくいい感触を得ることができたんです。レベルは確実に上がっていましたね。

もちろんドライ用タイヤに関して、今年の始めにテストをセブンでやったんですが、昨年優勝した時のポテンシャルを超えるタイヤが確認できています。最高のタイヤを用意してもらったんで、それを今年はしっかり生かして、開幕から確実に結果を残していかなければならないと思っています。



あら・せいじ
1974年5月5日生まれ、千葉県出身。94年にVWゴルフカップに出場してチャンピオンに輝いた後、アメリカで2年修行。97年に帰国してF4、F3を戦う。04年にはアウディR8を駆り、日本人としてはふたり目のル・マン24時間レース総合ウィナーに輝く

GT300

19 ウェッズスポーツIS350



織戸 学

Manabu Orido

片岡との強力タッグで、絶対にチャンピオンになる!

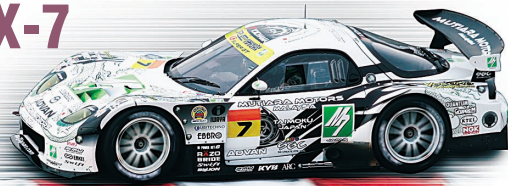
去年は途中からIS350にチェンジして、最初のうちはトラブルも出たけど、後半にはクルマもタイヤもバランスとれてきました。本当はもっと結果残したかったけど、今年のための準備をしていたんだということにして。今はすごくいい状態ですよ。今年は片岡龍也との強力タッグなんで、すごく楽しみ。ボンと乗ってもタイム出せるし、彼が今まで築いてきた経験とかノウハウをフィードバックできるんでね、まだまだクルマもタイヤも進化するはずですよ。

目標はもちろんチャンピオン! テストもスムーズに進んだし、実は決勝シミュレーションもできました。いい方向には来ていますから、あとは作戦を綿密に立てるとか、より精度を高めれば…という、もうそんな段階です。とにかくチームも頑張ってくれているし、みんなのやる気がすごい。まわりの状況がわからないから油断はできないけど、とにかく今はいいベクトルができていますので、これを生かせるよう頑張ります。



おりど・まなぶ
1968年12月3日生まれ、千葉県出身。90年ドリフトGP初代王座。91年に富士フレッシュマンでレースデビュー。2年目にNA-1600クラスでチャンピオンを獲得。スーパーシビアで95年から2連覇を果たし、97年はデビューイヤーに関わらず、全日本GT選手権のGT300でチャンピオンに輝く。その後スーパー耐久でも活躍し、GT500クラスでは03年から5シーズンを戦い、2勝を挙げている。

7 M7 MUTIARA MOTORS 雨宮RX-7



谷口信輝

Nobuteru Taniguchi

谷口が古巣に、成長して帰ってきました!

去年はタイサンボルシェでシリーズ3位。チャンピオンも目の前に見えていただけに、悔しい1年でもあったけど、まわりに対して金色のボルシェは嫌な存在だな、と思わせることができたし、ずっと目立ってましたから今にして思えば、そう悪い1年ではなかったかな、と。

今年はGTデビューさせてもらったRE雨宮で走らせてもらうんですが、谷口が成長して帰ってきた、と思われるようにしたいですね。徐々にセブン乗った印象は、僕が前に乗っていた頃と違って、ダウンフォースが効いてよく曲がると聞いていたんだけど、ちょっと現状アンダーな感じ。でも、それはコンディションの影響なのかもしれないし、やっぱり乗っていて楽しいクルマですよ。テストでもいきなり上位につけたしね。チームは当時とスタッフがほとんど変わってなくて、気心の知れた人たちなんでやりやすい。みんなと頑張って、チャンピオン争いをしたいですね。そのために僕がやらさないと(笑)。



たにくちのぶてる
1971年5月18日生まれ、広島県出身。ドリフトコンテストで実力を評価され、99年にレースデビュー。01年にはD1チャンピオンを獲得している。以降、ハコ筋に活動を重ね、GTには02年から出場。07年はGT300クラスで年間2勝を飾った。また併せて出場のスーパー耐久では02年にGN+クラスで、そしてクラス1では05、08年にチャンピオンを獲得している。